

10 山武市

(山武郡成東町・同郡山武町・同郡蓮沼村・同郡松尾町の合併)



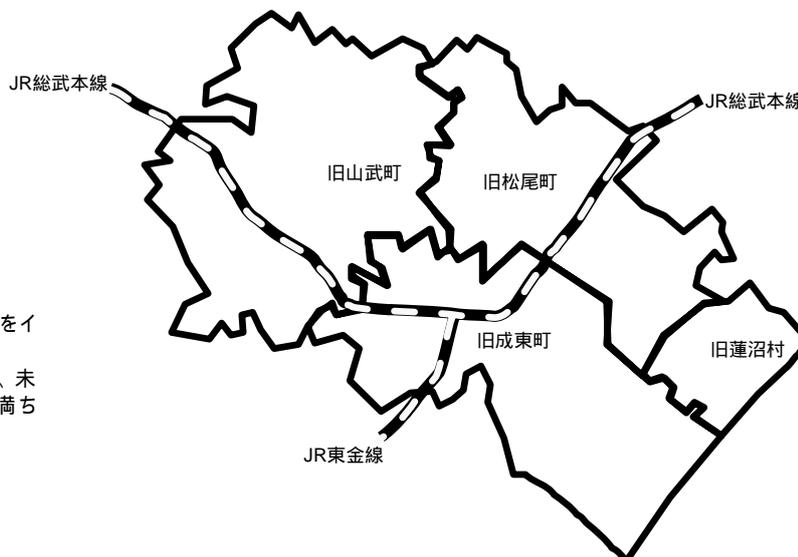
市章

太陽に映える恵みの大地と太平洋をイメージしました。

山武市の頭文字「山」をモチーフに、未来を拓く新しい風を感じる躍動感に満ちた山武市の姿を表わしています。

(山武市ホームページより)

巻末差込の別紙にカラー版あり。



(1) 概況

合併方式 新設方式(山武郡成東町、同郡山武町、同郡蓮沼村及び同郡松尾町を廃し、その区域をもって、山武市を設置する)

合併期日 平成18年3月27日

事務所の位置 山武市殿台296番地

人口 58,790人(平成18年3月1日現在常住人口)

面積 146.38 km²

初代市長 椎名千収

初代議長 清宮央行

議員定数 24人

位置・地勢等

山武市は、千葉県の東部に位置し、県都千葉市や成田国際空港まで約10～30キロメートル、都心へも約50～70キロメートルのところにあります。日本有数の砂浜海岸である九十九里浜のほぼ中央で約8キロメートルにわたって太平洋に面し、総面積は146.38平方キロメートルです。

地勢は大別して九十九里海岸地帯と、その後背地としての広大な沖積平野及び標高40～50メートルの低位台地からなる丘陵地帯で構成されており、これらは海岸線にほぼ並行に帯状に展開しています。

海岸地帯は、砂浜と松林が連なり、成東海岸と蓮沼海岸の遠浅の海が広がり多くの海水浴客が訪れます。

平地地帯は、本地域の中央部に広がる肥沃な土壌を持つ九十九里平野で、田園地帯を形成しています。

丘陵地帯は、大部分が成田層と呼ばれる地質で、表層が関東ローム層、下層が砂及び粘土互層で構成されており、上総層群の堆積盆地に位置しています。

山武市は、稲作はもちろん野菜や果実の生産も盛んで、山武杉などの林産物、九十九里浜の海の幸と、自然の恵み豊かな地域であるとともに、観光リゾート地として海水浴やサーフィン、テニスなどのスポーツも楽しめ、若者にも魅力ある地域資源を有しています。

近年では山武市の立地条件の良さから、工業施設の集積が高まりつつ、また自然環境の良さからもこの地域を訪れ、移り住む人々も数多くいます。

また、交通アクセスの利便性も向上しており、今後更なる交流と物流と観光の拠点として発展することが期待されています。(山武市ホームページより)

(2) 合併の背景等

(合併申請書添付書類「第4 廃置分合を必要とした理由」より)

4 廃置分合を必要とした理由

1. 4 町村の特性等

山武地域は、古くからの農漁村地域であり、江戸時代には、九十九里浜での地引網によるいわし漁で活気を呈し、また、北西部の丘陵地を中心に山武杉の産地が形成され、江戸との交流の中で産業が発展するとともに、農林漁業に関わる地域独自の文化を育んできた。現在も4町村は、稲作はもちろん野菜や果実の生産も盛んで、山武杉などの林産物、九十九里浜の海の幸と自然の味わい豊かな地域となっている。また、観光リゾート地として海水浴やサーフィン、テニスなどのスポーツも楽しめ、若者にも魅力のある地域資源を有している。また、自然環境の良さからこの地域を訪れ、移り住む人も数多くおり、今後更なる交流と物流と観光の拠点として発展することが期待されている。

このような地域特性を有する4町村は、買い物や病院・診療所、飲食などの日常生活圏をほぼ同じくするほか、山武都市9市町村で構成される山武都市広域行政組合に加入し、電子計算機の共同利用や職員研修、消防、福祉、し尿処理などの事業を行っている。また、ごみ処理については、東金市外三町清掃組合や山武郡環境衛生事業振興組合にそれぞれ加入し、病院事業については、7市町村からなる組合立国保成東病院に加入しており、行政上も深いつながりを有している。

2. 廃置分合を必要とした理由（社会的背景）

上記のような地域特性やつながりを有するほか、以下のような社会的背景を理由として廃置分合を必要とするものである。

(1) 総人口の減少と少子高齢化の進行への対応の必要性

総人口の減少と少子高齢化は、労働人口の減少による歳入規模の縮小や、福祉・医療などにかかる歳出の増大など、健全な財政運営に支障をきたすことが考えられる。今後、地域社会が発展し、住民が安心して暮らせるためには、これまで以上に地域が一体となってまちづくりに取り組み、市町村自らが効率的な行財政の運営、専門性の高い職員の確保、自立性の高い財政力の確立など、総合的な観点から行財政基盤を整備していく必要がある。

(2) 日常生活圏・経済圏の拡大と IT（情報通信技術）の急速な発展への対応の必要性

住民の生活圏や企業の経済活動圏は市町村の行政区域を越えて拡大している。

更に IT（情報通信技術）が急速に普及し、IT の活用による生活圏や経済活動圏の拡大は、今後ますます加速されることが予想される。

一方で IT（情報通信技術）の活用は、行政区域内での地理的距離によるサービス水準の格差を解消することも可能とし、高齢者や障害者などへのサービスの充実面でも大いに有効と考えられる。こうした日常生活圏・経済圏の拡大と IT（情報通信技術）の急速な発展に対応した行政体制の整備が求められている。

(3) 財政の悪化と行財政改革の必要性

国及び地方自治体は、行財政改革に着手しているが、住民ニーズの高度化・多様化による行政需要の拡大は今後も進むものと考えられ、近い将来には、そうした需要をまかなう財源が不足することが予想されている。長期的に安定した財源を確保し、強固な行財政基盤を築く体制づくりが求められている。

(4) 地方分権への対応の必要性

地方分権が実行段階を迎え、これからの市町村は、自らの責任と判断で地域の特性を十分に活かして主体的に行政を進めていくことになる。こうしたなかで地方分権時代に対応する行政組織を築くため、今後は、市町村の行政体制や財政基盤を充実強化し、政策立案能力を高めることが求められている。

（3）合併の経緯等

平成 14 年

10 月 24 日 東金市、大網白里町、九十九里町、成東町、山武町、蓮沼村、松尾町が県に合併重点支援地域の指定を要請

10 月 28 日 県が東金市、大網白里町、九十九里町、成東町、山武町、蓮沼村、松尾町を

	合併重点支援地域に指定
12月25日	東金市、大網白里町、九十九里町、成東町、山武町、蓮沼村、松尾町による山武地域7市町村合併任意協議会設置
平成15年	
4月1日	東金市、九十九里町、成東町、山武町、松尾町による山武地域合併協議会設置
5月28日	蓮沼村が山武地域合併協議会へ加入
平成16年	
11月28日	東金市において、合併の是非を問う住民投票が実施され、反対多数 (合併賛成 8,615、合併反対 17,038)
12月5日	山武町において、合併についての意思を問う住民投票が実施され、賛成多数 (合併賛成 2,867、合併反対 2,342)
平成17年	
1月11日	九十九里町長、成東町長、山武町長、蓮沼村長、松尾町長が合併について協議した結果、成東町、山武町、蓮沼村、松尾町による合併の推進を確認
1月21日	山武中央4町村合併任意協議会設置(成東町、山武町、蓮沼村、松尾町)
1月31日	山武地域合併協議会廃止
2月8日	成東町、山武町、蓮沼村、松尾町の臨時議会において、山武中央合併協議会設置議案の議決
2月10日	山武中央合併協議会設置(成東町、山武町、蓮沼村、松尾町)
2月14日	第1回合併協議会 ・合併の方式を承認 ・合併の期日を承認 ・新市の名称を承認(太平洋市) ・新市の事務所の位置を承認
2月23日	合併協議会臨時会 ・新市名称について、再度民意を確認することで合意
3月1日	第2回合併協議会 ・新市建設計画を承認
3月15日	第3回合併協議会 ・新市の名称を再度承認(山武市)
3月22日	合併協定書調印(成東町役場3階大会議室)
3月23日	松尾町議会において、合併議案の議決
3月24日	蓮沼村議会において、合併議案の議決

3月25日 成東町議会、山武町議会において、合併議案の議決
3月30日 成東町長、山武町長、蓮沼村長、松尾町長が県知事に合併申請書を提出
4月6日 県議会において、成東町、山武町、蓮沼村、松尾町の合併議案の議決
4月12日 成東町、山武町、蓮沼村、松尾町の合併を県知事が決定、県知事から総務大臣に届出
5月13日 総務大臣による合併の告示
平成18年
3月27日 合併

(4) 合併の特徴

庁舎の位置

成東町役場（山武町役場、蓮沼村役場、松尾町役場は支所）

議会議員の取扱い

在任特例適用（期間：平成19年4月30日まで。定数64人）

期間終了後の定数及び選挙区：24人。選挙区は設けない。

農業委員会の取扱い

在任特例適用（期間：平成18年11月30日まで。定数53人）

期間終了後の定数及び選挙区：30人。選挙区を設置する（4選挙区）。

地方税の取扱い

現行のとおり市税として新市に引継ぐ。

地域自治組織

地域審議会を設置する。

合併後の住居表示

4町村の字の区域は原則として現行のとおりとする。

字の名称については、次のとおりとする。

- ・成東町については、現行のとおりとする。
- ・山武町については、湯坂（ゆさか）を西湯坂（にしゆさか）とし、その他は、現行のとおりとする。
- ・蓮沼村については、現行に蓮沼（はすぬま）を冠した名称とする。
- ・松尾町については、現行に松尾町（まつおまち）を冠した名称とする。

(5) 合併関係市町村の概況

成東町

人口	24,059 人 (平成 18 年 3 月 1 日現在常住人口)
面積	47.02 k m ²
沿革	昭和 29 年 10 月 1 日合体 成東町、大富村、南郷村 (成東町) 昭和 30 年 3 月 31 日編入 鳴浜村 (一部) 昭和 30 年 7 月 1 日編入 緑海村
町長	大高和郎 (合併時)
議長	清宮央行 (合併時)
議員定数	20 人 (合併時)
職員数	216 人 うち一般行政職 122 人 (平成 17 年 4 月 1 日)
財政規模	普通会計歳出合計 7,458,568 千円 (平成 16 年度決算)

山武町

人口	19,277 人 (平成 18 年 3 月 1 日現在常住人口)
面積	52.05 k m ²
沿革	昭和 30 年 1 月 1 日合体 日向村、睦岡村
町長	松下浩明 (合併時)
議長	大塚重忠 (合併時)
議員定数	18 人 (合併時)
職員数	157 人 うち一般行政職 105 人 (平成 17 年 4 月 1 日)
財政規模	普通会計歳出合計 6,653,757 千円 (平成 16 年度決算)

蓮沼村

人口	4,631 人 (平成 18 年 3 月 1 日現在常住人口)
面積	9.72 k m ²
沿革	明治 22 年 4 月 1 日合体 蓮沼村、木戸村 (一部)、平野新田村
村長	浪川滯一 (合併時)
議長	秋葉武男 (合併時)
議員定数	12 人 (合併時)
職員数	62 人 うち一般行政職 45 人 (平成 17 年 4 月 1 日)
財政規模	普通会計歳出合計 2,641,055 千円 (平成 16 年度決算)

松尾町

人口	10,823 人 (平成 18 年 3 月 1 日現在常住人口)
----	----------------------------------

面積	37.59 k m ²
沿革	昭和 30 年 2 月 1 日合体 豊岡村、大平村、松尾町
町長	古谷淳（合併時）
議長	萩原善和（合併時）
議員定数	16 人（合併時）
職員数	141 人 うち一般行政職 81 人（平成 17 年 4 月 1 日）
財政規模	普通会計歳出合計 5,966,467 千円（平成 16 年度決算）



旧成東町役場（現山武市役所）



旧山武町役場（現山武出張所）



旧蓮沼村役場（現蓮沼出張所）



旧松尾町役場（現松尾出張所）